自立活動だより

自立活動部　Ｒ５年　１月　第４号

中津支援学校に通う児童生徒が使用している
主な身体器具の基礎知識について紹介します。

歩行器

（１）SRC ウォーカー（木馬型歩行器）

〇胸パッド、サドルなどを用いて前傾状態で体幹を支えることにより、両足で地面を蹴って前進を促す。
〇わずかな下肢の動きがあれば前進することができる。
〇身体に合わせてサドルや本体の高さを調節することができる。

緊張が強く、足が交差しやすい場合に効果的。

落下防止の為、後ろにベルトをつけている。

◆注意点◆
①テーブルの淵と壁の間に指が挟まることがあるので注意すること。
②乗せたらすぐにベルトを締め、はずれていないか必ず確認すること。
③乗り降りの際はブレーキをかけること（前方を壁に密着させると良い）。
④目を離さないこと。

（２）P.C.W（ポスチャーコントロールウォーカー）

〇安定した直立姿勢を保ちやすく、自然な歩行姿勢を促す構造になっている。
〇身体の真横に支持バーがあるため、体重が前方にかたよることなく体幹の伸展が得られ、肩甲骨や上肢の位置も改善される。
〇後輪にバックストッパーがついており、体重を後方にかけても逆行せず直立姿勢が保ちやすい。
〇一側ずつに体重移動しながらの自然歩行が行いやすい。

（３）ミニウォーク

〇動きにバネが反応し歩行をサポートする。
〇身体に合わせて各部の調整が可能。

★大切なこと★
担当する児童生徒が使用する際に、様々な場面を想定し、どのような危険があるのかを考え、担任同士で情報共有を行いましょう。
例）脚力に左右差があり倒れやすい。手すりに手をかけるので転倒するかもしれない。等

参考・パシフィックサプライ株式会社 「総合カタログ Vol.12」
・川村義肢株式会社「BOYS&GIRLS 子ども用サポート用品カタログ Vol.12 改定版 No.3」

実践例（SRC ウォーカー） ◆小学部 A さん
特徴 認知は8か月程度。見えにくさと聞こえにくさがある。座位可(割座を好む)。立位不可。
経過（2年半）
開始以前は、身体の機能的には立位や歩行も可能であるが、臥位が基本姿勢であった。小学4年生の6月に学校でのウォーカー歩行開始。当初は足を動かすことはほとんどなく、乗ることにも抵抗があった。約2か月後、自ら動ける楽しさに気づき、歩くようになる。慣れてくると、好きな場所を覚えて歩いて行き、方向転換もするようになる。右足優位であったが、坂を上る時等状況に合わせて左足も使うようになる。2年半程経過し、好きな場所が増え、足を交互に動かすこともできるようになってきた。